

# 児童・生徒を支援するための ガイドブック

## ～不登校への適切な対応に向けて～

文部科学省の調査によると、依然として不登校の児童・生徒の数は増加傾向にあります。不登校については、特定の子供に特有の問題があることによって起こるのではなく、どの子供にも起こりうることで捉え、関係者は不登校の状況になった児童・生徒への理解を深める必要があります。

同時に、不登校が継続することは、本人の進路や社会的自立のために望ましいことではなく、その対応策の検討が求められています。

東京都教育委員会では、全ての児童・生徒の豊かな学校生活の実現や社会的自立に向けて、先生方が適切に組織的な支援ができるよう、国の最新の研究結果を踏まえ、専門家、学校現場の先生方の協力を得て、「児童・生徒を支援するためのガイドブック」を作成しました。

活用の手引き

### 児童・生徒を支援するための ガイドブック

～不登校への適切な対応に向けて～



東京都教育委員会

#### 本書の主な構成

##### 不登校が生じない 魅力ある学校づくり

「不登校数の捉え方」、「居場所づくり」と「きずなづくり」

##### 適切なアセスメント による早期支援へ

「アセスメント」と、「支援シート」を活用した組織的な対応

不登校状態が長期化している児童・生徒への支援  
専門家や関係機関と連携した支援体制の構築

★アセスメントの項目として、「身体・健康面」「心理面」「社会・環境面」の三つの観点からそれぞれ着目点を示しています。

★アセスメントの項目を選択して入力できる「支援シート」フォーマットが付属されています。

## 1 本書の構成と活用の仕方

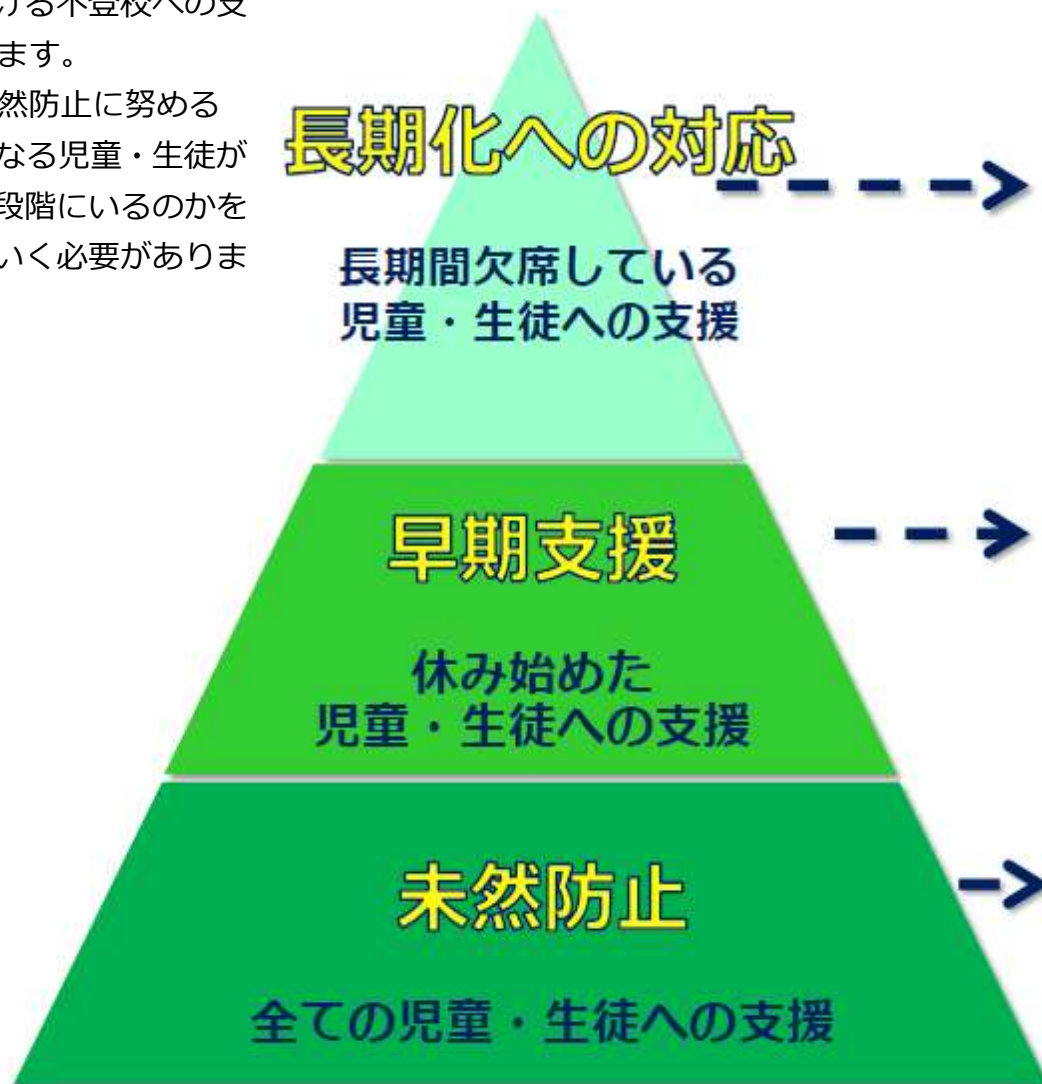
### 「学校における支援の三つの段階」と「支援内容の紹介」

～「第Ⅰ章 本書の特徴と活用について」より～

#### 【学校における支援の三つの段階】

次の図は、学校における不登校への支援を三段階で示しています。

日常から不登校の未然防止に努めるとともに、校内で気になる児童・生徒がいる場合、以下のどの段階にいるのかを確認し、支援を行っていく必要があります。



## 2 不登校が生じない魅力ある学校づくり

### 「不登校数の捉え方」、「居場所づくり」と「きずなづくり」

～「第Ⅱ章 不登校が生じない魅力ある学校づくり」より～

「不登校を減らすための取組」と言うと、一般的には「不登校児童・生徒を学校に復帰させる取組」を連想しがちですが、「不登校を減らすための取組」の推進には、新規数の抑制を図ることが大切です。新規数を抑制するためには、全ての児童・生徒が学校（学年・学級）を魅力ある場所と感じられるようにする「未然防止」の取組を進める必要があります。

本書は、左ページの「学校における支援の三つの段階」でそれぞれの段階に必要な支援の在り方を各章で紹介しています。また、各章の内容は相互に関連しています。

児童・生徒の実態に合わせて必要なページを参考にし、不登校対策に役立ててください。

### 【支援内容の紹介】

#### 「長く欠席している不登校児童・生徒がいる」

第Ⅴ章 不登校状態が長期化している児童・生徒への支援 (P.68～)

を参考にしてみましょう。

不登校が長期化している児童・生徒や保護者との関わり方や関係機関との連携等について書かれています。学校・家庭・社会が不登校児童・生徒に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢で支援を続けることで、信頼関係を構築し、社会性や人間性の伸長、社会的自立への支援を行います。

#### 「休み始めた児童・生徒がいる (遅刻や早退が増え始めた)」

第Ⅳ章 早期支援 (P.31～)

第Ⅲ章 アセスメント (P.22～)

を参考にしてみましょう。

支援の対象となる児童・生徒の情報の収集・分析（アセスメント）や、支援を実施する際に役立つ「支援シート」の作成について書かれています。対象となる児童・生徒一人一人の状況を的確に把握し、組織的・計画的に支援を行います。

#### 「不登校が生じない学校（学年・学級）にしたい」

第Ⅱ章 不登校が生じない魅力ある学校づくり (P.10～)

を参考にしてみましょう。

全ての児童・生徒が学校（学年・学級）を魅力ある場所と感じられるようにすることで、「未然防止」を図ることについて書かれています。魅力ある学校づくりの実現により、不登校の新規数抑制を図ります。



先生方は、日々、児童・生徒にとって「魅力ある学校・学級づくり」を目指して教育活動に取り組んでいることでしょう。その願いや思いをより実現させる取組の一つとして、教職員による「居場所づくり」と児童・生徒自身による「きずなづくり」を意識した教育活動が挙げられます。

全ての児童・生徒の「心の居場所」となる学校

そのために

教職員が、児童・生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供する。

【安心安全な学校づくり】

全ての児童・生徒の「きずなづくりの場」となる学校

そのために

児童・生徒が、主体的に取り組む活動を通し、自らが「きずな」を感じ取り、紡いでいく。

【教職員は場と機会の設定】

## 5 不登校が長期化している児童・生徒への支援

～「第Ⅴ章 不登校が長期化している児童・生徒への支援」より～

### 専門家や関係機関と連携した支援体制の構築

不登校による欠席が長期化している児童・生徒は、自分が学校へ行かない間に友達が成長したり、授業が難しくなっていたりすることに加え、先生も自分のことを忘れていないかという不安を強くもっています。その一方で、多くの場合「変わりたい」「学びたい」「将来のため、前に進みたい」という気持ちも併せもっています。

本書では、不登校が長期化している児童・生徒や保護者との関わり方や関係機関との連携等について記載しています。学校・家庭・社会が不登校児童・生徒に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢で支援を続けることで、信頼関係を構築し、社会性や人間性の伸長、社会的自立への支援を行うことが重要です。

- 1 出会いを大切にする ～学年・学期始めに～
- 2 本人又は保護者と話をする ～じっくりと関わる～
- 3 本人又は保護者と会えない・連絡が取れない ～まず確認しよう～
- 4 学校内で学ぶ・育つ ～学校の安心・安全・楽しさを感じる～
- 5 学校外の関係機関で学ぶ・育つ ～ゆっくり外の世界とつなぐ～
- 6 家庭で学ぶ・育つ ～安心できる場所からのスタート～
- 7 自分に合った道筋・歩幅で歩む



### 【卒業後も支援が続くよう、進路先等に確実な引継ぎをおこないましょう。】

各学校では、これまでも、不登校の児童・生徒が卒業した際に、在学中の出席状況や支援の経過等を進路先に引き継いできました。同様に、卒業後、進学や就労をせず、在宅している卒業生についても、社会から孤立させないために、情報を区市町村の福祉関係部署と共有してきたことでしょう。

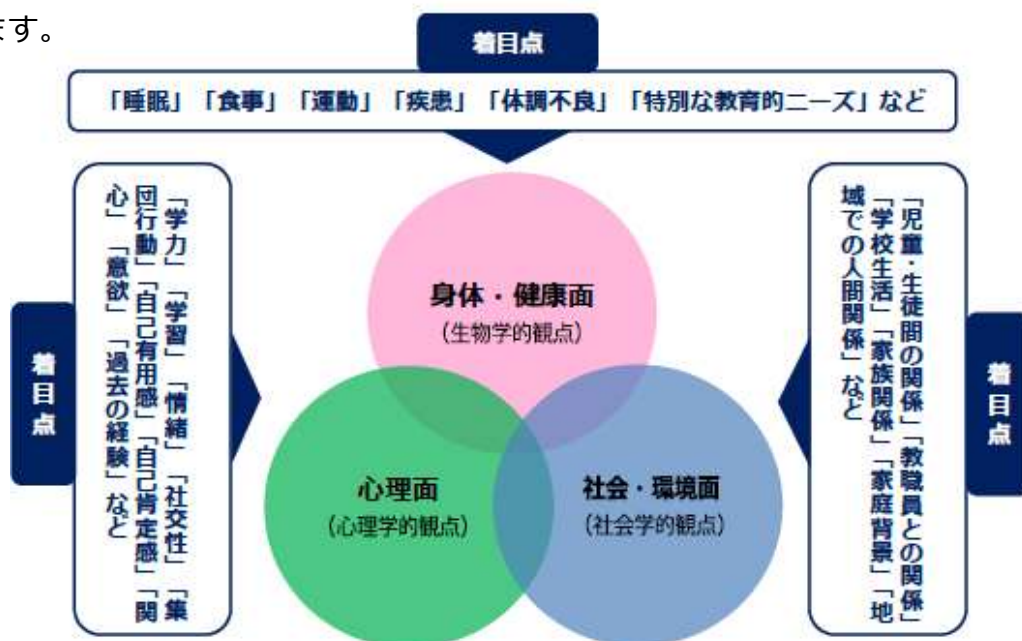
本書で紹介した「支援シート」等、在学中の生徒の様子や長所、また、本人、保護者の思いや願いなど、貴重な情報が記載されている資料は、進路先等にとっても大切な情報となります。自校で蓄積した支援の状況をはじめ、不登校児童・生徒の情報は、取扱いに十分注意し、保護者の同意を得た上で、確実に進路先等に引き継ぎ、必要な支援が継続されるようにしましょう。

★本書のデータは、東京都教育委員会のHPや、「マイ・キャリア・ノート」からダウンロードできます。各学校や地域の実態に合わせて、活用してください。

### 3 適切なアセスメントによる早期支援

#### 多角的に不登校の状況や要因、背景を捉える～「身体・健康」「心理」「社会・環境」面から捉える～

本書では、医学や心理学の領域で使われている生物学、心理学、社会学的観点から多面的・多層的に捉え、対処しようとする「生物・心理・社会モデル」を参考に、児童・生徒の状況を教育関係者に分かりやすい「身体・健康面（＊）」「心理面」「社会・環境面」という三つの大きな観点から捉え、児童・生徒の不登校の要因や、本人のもつ良さを把握し、支援につなげる考え方を示しています。



★本書でいう「身体・健康面」の「健康」とは、「第三章 アセスメント」に示すような、児童・生徒の状況を把握するための着目点のうち、心身の健やかさや病気の有無等に関する着目点をまとめる意図で独自に定義付けるものであり、WHO（世界保健機関）による「健康」の定義とは異なります。



#### 「アセスメント」と、「支援シート」を活用した組織的な対応

～「第三章 アセスメント」「第四章 早期支援」より～

「アセスメント」とは、支援の対象となる児童・生徒の情報の収集・分析を行い児童・生徒の状況を把握することです。「支援シート」は、支援に関する情報を集約し、組織的に支援を行うため、複数の関係者により作成するものです。また、アセスメントは、児童・生徒の状態の全体像をつかむための基本的な情報であるため、複数回アセスメントを実施した場合は、その推移を記載しておく、一目で児童・生徒の傾向を把握することができます。

本書では、アセスメントを活用した支援シートを紹介します。

支援シートを活用することで、不登校の児童・生徒の支援に必要な情報を集約し、それに基づく支援計画を学校内や関係機関で共通理解し、さらに、そのシートを校種間で適切に引き継ぐことによって継続的に多角的な視野に立った指導体制が構築できるようになります。

## 4 アセスメントの項目と支援シートへの入力

### アセスメントの項目

「身体・健康面」「心理面」「社会・環境面」の三つの観点からそれぞれ着目点を示しています。対象となる児童・生徒を観察し、「現在の状況・様子」から該当するものを選び、支援シートに入力することができます。

身体・健康面		心理面		社会・環境面		
着目点	現在の状況・様子	着目点	現在の状況・様子	着目点	現在の状況・様子	
睡眠 (P.32 参照)	1 睡眠不足である	学力 学習 (P.42 参照)	1 学習につまずき	児童・生徒間の関係 (P.56 参照)	1 いじめの訴えがある・いじめの情報がある	
	2 寝つきが悪い		2 考えることが苦手である		2 対立がある	
	3 朝、起きられない		3 記憶が少ない		3 悪口・陰口を言われている	
食事 運動 (P.34 参照)		情緒 (P.44 参照)			教職員との関係 (P.58 参照)	4 孤立している
						5 気まづくなっている
			1 教職員に反発している			6 相談できる友達がいない
			2 教職員を避ける			1 校則になじめていない
			3 教職員に対する緊張が見られる			
			4 教職員の前では本心を見せない			

### 支援シート

付属している電子版の「支援シート」は表計算ソフトで作成します。現在の状況・様子については、該当するものを選んでクリックして入力できます。

The screenshot shows a detailed form for the support sheet. It includes fields for student name, grade, and school. Below that is a grid for recording attendance and assessment results across months. The main part of the form is divided into three sections: 'Body/Health', 'Psychological', and 'Social/Environment'. Each section has a list of assessment items and a corresponding grid for inputting the current status of the student.

入力の手順（「支援シート使い方ガイド」も参照してください。）

- ① 氏名や学年、出席日数など、必要事項を入力する。
- ② アセスメントの三つの観点とそれぞれの着目点から、「現在の児童・生徒の様子」で該当するものを入力する（着目点にない特徴等は、必要に応じて手入力する。）。
- ③ 登校支援会議等で話し合い、決定した支援内容や方法について入力する。
- ④ 保護者面談や引継ぎの資料として活用する。

※全ての欄に必ず入力する必要はありません。